

# 令和元年度 野外環境放射線（能）測定結果

測定結果は、放射線安全、環境安全評価上、問題となるものではありませんでした。

## 1. 空間線量率

2か所の測定地点で連続して測定を行い、結果については、右の地図上のグラフに示します。

## 2. 積算線量測定

区分	測定地点	四半期平均値 ( $\mu\text{Sv}/91\text{日}$ )	四半期最大値 ( $\mu\text{Sv}/91\text{日}$ )	年間平均値 ( $\mu\text{Sv}/365\text{日}$ )
周辺監視区域内	4 (①~④)	196	215	785
事業所外	6 (⑤~⑩)	185	233	744

## 3. 環境試料分析

【 $\beta$ 放射能】

区分	試料数	採取地点	年間平均値 (最小値~最大値)
陸水 (Bq/L)	12	原研前マンホール 小阪ポンプ場	0.44 (0.28 ~ 0.73)
底質土 (Bq/kg 乾土)	12	原研上流マンホール	682 (612 ~ 764)

【 $\gamma$ 線スペクトル分析】

区分	採取地点	人工核種 (最大値) ※	主な天然核種 (最大値)
土壌 (Bq/kg 乾土)	近大記念会館	セシウム 137 $1.4 \pm 0.3$	カリウム 40 $768 \pm 12$
植物 (Bq/kg 生)	近大構内 (サンゴジュ) (ツバキ) 小阪ポンプ場 (サンゴジュ)	検出されず	カリウム 40 $183 \pm 2$
陸水 (Bq/L)	原研前マンホール 小阪ポンプ場 原研上流マンホール	検出されず	カリウム 40 $0.72 \pm 0.02$
底質土 (Bq/kg 乾土)	原研前マンホール 小阪ポンプ場 原研上流マンホール	セシウム 137 $0.86 \pm 0.24$	カリウム 40 $689 \pm 11$

※ 検出されたセシウム 137 は 1960 年代の核実験の影響と判断される低いレベルでした。

# 環境放射線等の測定及び環境試料の採取場所

